



## 2022年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2022年2月10日

上場会社名 株式会社アルファポリス

上場取引所 東

コード番号 9467 URL <https://www.alphapolis.co.jp/company/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶本 雄介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理本部本部長 (氏名) 大久保 明道

TEL 03-6277-0123

四半期報告書提出予定日 2022年2月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第3四半期の業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	6,981	22.0	1,671	4.8	1,677	4.8	1,040	3.2
2021年3月期第3四半期	5,723	43.8	1,595	51.5	1,600	52.0	1,008	56.5

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	107.44	
2021年3月期第3四半期	104.12	

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	10,135	8,430	83.2
2021年3月期	9,478	7,483	78.9

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 8,430百万円 2021年3月期 7,483百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		0.00		0.00	0.00
2022年3月期		0.00			
2022年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年3月期の業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,300	20.2	2,400	10.9	2,400	10.5	1,488	11.5	153.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	9,687,400 株	2021年3月期	9,687,400 株
期末自己株式数	2022年3月期3Q	270 株	2021年3月期	206 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	9,687,170 株	2021年3月期3Q	9,687,236 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第3四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	6
(会計方針の変更) .....	6
(追加情報) .....	6
(セグメント情報等) .....	6
(重要な後発事象) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間（2021年4月1日から2021年12月31日まで）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和される中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって持ち直しの動きが続いているものの、依然として先行き不透明な状況で推移しております。

当社が属する出版業界におきましては、紙と電子を合算した出版市場（推定販売金額）は、3年連続のプラス成長となりました。公益社団法人全国出版協会・出版科学研究所によると、2021年（1月から12月まで）の紙と電子出版を合算した推定販売金額は前年同期比3.6%増の1兆6,742億円となり、その内訳は、紙の出版物については同1.3%減の1兆2,080億円、電子出版については同18.6%増の4,662億円と、電子出版市場の拡大が続いております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いものが望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。

当第3四半期累計期間における書籍のジャンル別の概況は以下の通りであります。

#### ① ライトノベル

当第3四半期累計期間の刊行点数は153点（前年同期比2点増）となりました。シリーズ累計630万部を突破した当社の主力タイトル『ゲート』のシリーズ始まりのエピソードを描いた『ゲート0』を刊行し、当タイトルを筆頭に人気シリーズの続刊が好調に推移いたしました。また、電子書籍につきましては親和性の高い女性向け小説が引き続き好調を維持し、売上を牽引いたしました。

結果、当第3四半期累計期間の売上高は前年同期を上回る金額で着地いたしました。

#### ② 漫画

当第3四半期累計期間の刊行点数は前年同期を大きく上回る106点（前年同期比18点増）となりました。各書籍の売れ行きにつきましては、『ゲート』、『THE NEW GATE』、『異世界ゆるり紀行』等、ライトノベルヒット作をコミカライズしたタイトルの続刊が堅調に推移いたしました。また、当ジャンルと親和性が非常に高い電子書籍販売につきましても、刊行点数の増加による新刊売上の増加に加え、新刊配信に伴って同シリーズの既刊売上が伸長したこと等により、売上は大幅に増加いたしました。

結果、当第3四半期累計期間の売上高は前年同期を大きく上回る金額で着地いたしました。

#### ③ 文庫

当第3四半期累計期間の刊行点数は前年同期と同数の107点となりました。『ゲートSEASON2』、『ほっといて下さい』等のライトノベル人気作の文庫版が堅調に推移し、売上を牽引いたしました。さらに、キャラ文芸ジャンルから『あやかし鬼嫁婚姻譚』を刊行し、好調な売れ行きを示す等、引き続き取り扱いジャンルの拡大にも注力してまいりました。

しかし、刊行計画の関係から、刊行書籍1点あたりの発行部数は前年同期に及ばず、当第3四半期累計期間の売上高は前年同期を下回る結果となりました。

#### ④ その他

当第3四半期累計期間の刊行点数は8点（前年同期比9点減）となりました。絵本ジャンルから、「第10回絵本・児童書大賞」の特別賞受賞作『メロンパンツ』、「絵本ひろば第1回読み聞かせ絵本大賞」の大賞受賞作『だいかぞく』を刊行し、同ジャンルの強化に注力してまいりました。また、当社Webサイトで人気のビジネス連載を書籍化した『人事はあなたのココを見ている！』を刊行する等、特定ジャンルに依存しない幅広いジャンルにおける書籍刊行を推進いたしました。

しかしながら、刊行計画の都合上、刊行点数が前年同期から減少した影響により、当第3四半期累計期間の売上高は前年同期を下回る金額で着地いたしました。

以上の活動の結果、当第3四半期累計期間の売上高は6,981,346千円（前年同期比22.0%増）となりました。

利益面におきましては、主に第2四半期会計期間に実施したテレビCM放映をはじめとした当社サービスの認知度向上に向けた大型成長投資により販売費及び一般管理費が大幅に増加しましたが、当第3四半期累計期間における売上高の増加により、営業利益は1,671,730千円（同4.8%増）、経常利益は1,677,824千円（同4.8%増）、四半期純利益は1,040,760千円（同3.2%増）と前年同期を上回る金額で着地いたしました。

また、特に当第3四半期会計期間において、営業利益、経常利益及び四半期純利益は、四半期単位でそれぞれ過去最高を更新いたしました。

なお、会計方針の変更として、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期会計期間の期首から適用しております。このため、前年同期比較は基準の異なる算定方法に基づいた数値を用いております。詳細については、「2. 四半期財務諸表及び主な注記（3）四半期財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご参照下さい。

（注）シリーズ累計部数：同作品の続編に加え、同作品の漫画及び文庫を含み、部数は電子書籍販売数を含む。

## （2）財政状態に関する説明

### ① 資産

当第3四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末と比較して616,845千円増加し、9,720,049千円となりました。これは主に、現金及び預金が増加（前事業年度末比313,566千円増）したこと並びに売掛金が増加（同259,965千円増）したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末と比較して39,821千円増加し、415,515千円となりました。これは主に、投資その他の資産が増加（同19,370千円増）したこと及び無形固定資産が増加（同18,100千円増）したことによるものであります。

### ② 負債

当第3四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ275,101千円減少し、1,678,028千円となりました。これは主に、未払法人税等が減少（前事業年度末比448,428千円減）したこと及び返品調整引当金が減少（同307,252千円減）した一方で、返金負債が増加（同427,503千円増）したこと及び未払金が増加（同96,006千円増）したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ15,202千円減少し、27,048千円となりました。これは主に、長期借入金の減少（同14,226千円減）によるものであります。

### ③ 純資産

当第3四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ946,969千円増加し、8,430,487千円となりました。これは主に、四半期純利益の計上等に伴う利益剰余金の増加（前事業年度末比947,203千円増）によるものであります。

## （3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の業績予想につきましては、2021年5月13日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,088,469	6,402,035
売掛金	2,659,929	2,919,894
製品	193,359	199,761
仕掛品	132,933	145,665
その他	28,511	52,692
流動資産合計	9,103,204	9,720,049
固定資産		
有形固定資産	33,531	35,881
無形固定資産	32,178	50,279
投資その他の資産	309,983	329,354
固定資産合計	375,694	415,515
資産合計	9,478,898	10,135,564
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	51,600	47,828
1年内返済予定の長期借入金	20,088	20,088
未払金	577,343	673,349
未払法人税等	666,783	218,354
賞与引当金	44,139	12,352
返品調整引当金	307,252	—
返金負債	—	427,503
投稿インセンティブ引当金	27,550	34,103
その他	258,370	244,447
流動負債合計	1,953,129	1,678,028
固定負債		
長期借入金	37,252	23,026
その他	4,998	4,022
固定負債合計	42,250	27,048
負債合計	1,995,380	1,705,076
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	5,766,272	6,713,476
自己株式	△403	△637
株主資本合計	7,483,518	8,430,487
純資産合計	7,483,518	8,430,487
負債純資産合計	9,478,898	10,135,564

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	5,723,461	6,981,346
売上原価	1,282,772	1,553,815
売上総利益	4,440,689	5,427,531
返品調整引当金戻入額	339,621	—
返品調整引当金繰入額	317,120	—
差引売上総利益	4,463,190	5,427,531
販売費及び一般管理費	2,867,690	3,755,800
営業利益	1,595,499	1,671,730
営業外収益		
受取利息	20	25
前払式支払手段失効益	5,559	6,653
営業外収益合計	5,580	6,679
営業外費用		
支払利息	146	174
その他	1	410
営業外費用合計	148	585
経常利益	1,600,931	1,677,824
税引前四半期純利益	1,600,931	1,677,824
法人税等	592,344	637,063
四半期純利益	1,008,586	1,040,760

### （3）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（会計方針の変更）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、従来は売上総利益相当額に基づいて流動負債に計上していた「返品調整引当金」については、返品されると見込まれる製品についての売上高及び売上原価相当額を認識しない方法に変更しており、返金負債を流動負債の「返金負債」として計上し、返品資産を流動資産の「その他」に含めて表示しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高が36,799千円増加し、売上原価が38,367千円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ1,568千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は93,557千円減少しております。

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」

（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期財務諸表への影響はありません。

（追加情報）

（表示方法の変更）

（四半期貸借対照表）

前事業年度末まで貸借対照表において、流動負債に表示していた「ポイント引当金」は、内容をより明瞭にするため、第1四半期会計期間より流動負債の「投稿インセンティブ引当金」として科目名を変更して表示しております。

（セグメント情報等）

当社は、出版事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。